

「神様の計画 ～御言葉の種Ⅱ～」

マルコ 4:1~20

■ 米子松蔭高校

米子松蔭高校野球部は春の県大会で優勝し、第1シードの優勝候補として4回目となる夏の甲子園出場を目指していた。県大会2回戦の前日、学校関係者の1人が新型コロナウイルスに感染。鳥取県高校野球連盟は、学校関係者の感染が判明した場合は臨時休校となり、大会に参加できないと規定。一方、保健所が実施する疫学調査を踏まえ、専門家と協議した結果、参加できる場合もあるとのただし書きもあった。部員からの陽性者はなかったが、感染経路が特定できないという理由で、試合当日の朝、球場へと向かうバスの中で出場辞退、不戦敗が決まった。そのような突然の失望の中で、主将は野球部の規則で禁止されているSNSへの投稿を決意し冒頭の文面を考えツイート。主将のツイートは最終的に3万回近くリツイートされ、6万5000を超える「いいね」がついた。出場辞退の3日後の19日、県高野連は米子松蔭高の不戦敗を取り消して出場を容認。相手校も了承して、21日10時30分から試合が行われるという奇跡が起こった。

何故ということが起こった時、あなたはどのような判断を取ってでしょうか？

『僕たちは夏の大会に向けて、甲子園目指して、必死に練習してきました。部員から陽性者はいません。校長先生含め学校は最後の最後まで出場できる道を探してくれました。試合もできずに、このまま終わってしまうのは、あまりにも辛いです。何とか出場する道を模索していただけませんか？ #米子松蔭』これは、彼がツイートした内容です。彼は野球に人生を賭けてきたのに出場できなくなり考えることを辞めてしまったり、コロナウイルスに感染した人を責めたり、高野連の対応に批判したりすることはしませんでした。

批判ではなく、願いを、相手の状況も理解した上で感謝と共に、自分たちの願いは、この3年間の本気の思いを受け取っていただきたい。何とか本来の道へ戻る方法を一緒に模索していただけませんか？と、正しい願いを求めて声を上げた時に多くの人が動いたのです。

■ 「道ばた」「岩地」「いばらの中」「良い地」に蒔かれる種 マルコ 4:13-20

良い畑が良いのはわかっているのに変えることができないのが私たちです。

何かが起こると、私はやはり愛されていないから、私は生まれが悪いからなにをやってもこうなってしまうのだ。また、私は絶対にうまく行くはずなのだ。しかしうまく行かないのはブラックボックスが私たちの内にあるからなのです。

Aと聞いてもブラックボックスを通して聞くとBと変換されてしまう…。これでは、あなたにとって素晴らしいことをいくら聞いても、いつも結果は同じになってしまいます。

聞くのだけれど、見るのだけれども本当の理解をしようとしなくて私たちの人生をダメにしてしまうのです。しかし、聖書はそのような変えることのできない私たちに光を灯すためにイエス様がきてくださったのだと伝えているのです。本当の理解をするために4つの例えがあるのです。

■ 「道ばた(道)」デレク エデンの園にあたいのちの木への道

『こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。』(創3:24)

この「道」という言葉は、上の創世記の御言葉と関係しています。いのちの木への道を守るという役目にあつた者たちが、ルシファーが地に落とされる時にそそのかされ、共に地に落ちていく仲間となっていました。与えられた彼らの役目を盗まれた人。みことばを蒔かれて盗まれる人というのは、アイデンティティーが喪失されているのです。役割がわかっていないので種が蒔かれても気が付くことができません。聴けないから変わることができないのです。「聴くこと」は良い地になるための唯一の方法です。それと同時にそれは「祈ること」でもあります。

祈りは価値観が変わった奇跡・祈りは願いです。

■ 「岩地(岩)」セラ 荒野で神がモーセに命じて水を湧き出させた岩

自分の都合が悪くなると、自分の思いが叶わず、自分が不安になると、人も一緒に連れていこうとする天使長ルシファーのような人。神のようになりたいと思う、道を失った人は人を誘惑するのです。彼らは道

を失い人が神様との関係を壊して、人のせいにするのを望んでいるのです。そのような人はモーセが身の危険を感じて焦って言われたことと違う岩を打ってしまったように、自分のために何かを打ってまでもそれを得ようとするのです。

■ 「いばら」

コート 人の罪の結果生まれた植物として、大地の呪いを指しています。

いばらとはのろいという意味。私たちはいばらの中を選んで歩いているのですから傷ついて当然です。神様はまっすぐな道を用意してくださっています。私たちは道を間違っていると気づいたのならば、戻る選択ができるのです。そして、戻る時にどう生きるかが大切です。

■ 「良い地」

あなたは誰に誘惑されているのですか？ どうして自分の価値観と違うものを選ぶのですか？ 誰の声を聞きますか？ 私たちは私たちの人生をダメにしようと囁きかける声を知っています。そこで私たちは判断しなくてははいけません。いばらの地で生きるのか。良い地で生きるのか。人生を狂わすために狂わす声をかける存在がいることを知しましょう。

■ 「奥義」

『メオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。』(創49:5,6) <奥義(Mystery)>秘められている・隠されている

ある部族が、殺人の計画を企てている。という意味があります。これは上記の創世記の御言葉に関係しています。「密室で行われている、良くない心」(自分を否定する・人のせいにする…など、自分の心にあるblack box)先にも言いましたが、どんなに、素晴らしい御言葉を受け取っても、このblack box(自分の価値観・決めつけ)を通すので、あなたの考えは変わることができません。

しかし私たちの内に汚い心があることを理解して良い地になる決断をするならば、まっすぐな道に戻ることができます。神様は道を失っていばらの中を歩んでいる私たちの人生に、人々の悪巧みの中から神の奥義を実現されようとされています。

聖書が御国と言っているのは価値観のことです。わたしたちは自分と違う価値観を聴かなければならないのです。わたしたちが自分たちの中にあるいばらを、良い土地に帰るためにみことばを聴きに礼拝に來ているのです。

わたしたちは良い地になることを願っていましたが、なることができませんでした。しかし、聴けば良かったのです。私たちが本当に聴く気持ちがあれば変わることができると言っているのです。

■ 「Every Praise」

ウィリー・ミリク君(10)は、アメリカ・ジョージア州アトランタの自宅前で拉致されました。彼は助かりたい一心でゴスペルの名曲「Every Praise」を繰り返し繰り返し歌い続けた結果解放されました。「助けて！」という祈り。祈りは、私たちの価値観が変わった瞬間に起こる奇跡なのです。

あなたの自論が、いばらが、そして誰かの声を聞くから変われないのです。神様の前に聴くことから始まります。良い地になるための唯一の方法、それは神様に聴くことです。

さいごに

わたしたちは、アダムとイブの原罪の時よりいばらの道を歩んでいます。いばらの中を歩いていけば傷つくのは当然です。ですが既に神様はアダムとイブの原罪の前より私たちにまっすぐな道を用意されています。その道に戻る方法は自論や他の人が語りかける声ではなく、神様に聴くことです。そして、礼拝をお捧げすることです。私たちの心の内に汚い思いがあることを認めて、本当の願いを求めて神様に聴く心があれば変わることができるのです。

(要約者:澤口 建樹)

(2022年12月11日)